

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：うんなんコミュニティ財団

記入者名：村上尚実

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22~24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：37,222人、将来：30,976人（2030年）、23,264人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来目標 【人口】現状：37,222人→目標：38,000人（2020年）35,000人（2040年）
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標 【ごみ一人1日あたりの排出量】705g（2016年）→：646g（2019年）【リサイクル率】53.6%（2016年）→56.0%（2019年）

②具体的な取組

●うんなんみらい調査の実施/市民対象（弊財団・株式会社fog） みらいコンテスト → 来年度申請者の支援●ローカ

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなでつくろう

→ 少子高齢化や核家族化、地域との繋がりの希薄化が進み、自治会単位や家族単位で支え合っていたことができなくなっている。現在、定年後に所属する人も多い地域自主組織が主となり、地域課題を地域で解決する「小規模多機能自治」が行われているが、今後はさらに、学生・働き世代など10~40代の関わりの有無が地域の持続を大きく左右する。学業や仕事、子育てなどで多忙な中、いかに「自分たちのまちを自分たちでつくろう」と楽しく参加する・行動する人や仲間を増やして行くかが重要である。

個々人でまちづくりに参加できる時間（期間・頻度等）や関心分野は様々である。そのため、参加しやすいと感じるプロジェクトへの参加方法を担い手自ら選択したり、自ら創り出す機会そのものの環境を整えることで環境の保全や資源（自然資源・人・資金・情報等）が循環する地域を目指す。

<ローカルマニフェスト>

1. 一人一人の力が地域を支える
2. ゆっくりと共に進める
3. 自然の微細な変化に気づき、留まる力を持つ
4. てまひまかける豊かさを
5. 「思いやりのあるお節焼きさん」であり続けよう
6. 声に出そう、そして聴こう
7. 無理しないお互いさまで地域をつくる・まもる・かえる
8. いろんなを受け入れる
9. 弱さも強さ
10. ずっと協力しつづけてきた、これからも

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	雲南の環境活動について知る機会づくり	循環オンライン座談会の開催	0	5	4	回
	雲南の環境活動を知る	循環オンライン座談会参加者	0			人
	雲南の環境活動を知り行動する人	みらいコンテスト申請プラン数	0	5	7	プラン
経済	資金が循環する	地域密着型クラウドファンディング寄付金額（2月22日現在）	0	160	170	万円
	資金が循環する	地域密着型クラウドファンディング寄付者数（2月22日現在）	0	60	80	人
社会	行動が変わる	地域密着型クラウドファンディング実施者（2月22日現在）	0	3	3	プラン
	行動が変わる	地域密着型クラウドファンディングプラン発表者（2月22日現在）	0	18	13	組
	雲南の市民活動を知る	地域密着型クラウドファンディングプラン発表参加者（2月22日現在）	0	120	106	延人数
	雲南の市民活動を知る	地域密着型クラウドファンディングプラン発表（2月22日現在）動画閲覧数	0	3,000	3,816	回

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	自然環境の維持	自然環境が守られていると感じる市民の割合	75	76	2030年	80	%
	自然環境の維持	自然環境・保全のために活動をしている	70.1	72	2030年	75	%
	環境負荷減	ごみ排出量（1日1人あたり）	704	700	2030年	646	g/人日
	環境負荷減	リサイクル率	51.4	53	2030年	56	%
経済	資金が循環する	里山券の使用枚数	3,900	3,900	2030年	4,000	枚/年
	資金が循環する	地域密着クラウドファンディング寄付者	0	170	2030年	1,000	万円
社会	市民参画	市民参加型収集運搬システム「林地残材」搬出量	954	970	2030年	1,100	t/年
	市民参画	まちづくりに関心がある市民の割合	74.5	71.8	2030年	80	%
	市民参画	過去1年間に地域活動に参加した市民の割合	72.9	71.8	2030年	75	%
	市民参画	地域課題を地域主体で解決できていると感じる市民の割合	42.2	38.1	2030年	50	%
	市民参画	助け合える地域であると感じる市民の割合	72	74.6	2030年	75	%
	関係人口	関係市民	3,940		2030年	4,500	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなでつくっていくには、市民参加の壁を低くする、無くしていくことが必要である。

短期目標にある「みらいコンテスト申請プラン」には、「みんなのコンポスト」など市民農園や廃校を活用し主に田畑を所有しない町部の市民を対象に生ごみ処理を促進するプロジェクトや、空き家を活用して孤食防止やリユース拠点などの役割も担う地域の「第三の居場所づくり」のプロジェクトなどがある。このような新たな活動と、既存のリユースプロジェクトや量り売り店舗のマッピングをすることにより、自らプロジェクトを実施する市民と、プロジェクトに参加することにより環境活動に関わる市民を増やしていきたい。その活動の積み重ねにより、ごみ排出量の削減やリサイクル率の向上に繋げていく。

また、令和14年度には雲南圏域のごみ焼却炉建替が完了するため、市民でごみについて考える機会やごみを減らしていく活動を実施していきたい。生ごみに関しては上記コンポストの他に、事業者の生ごみ排出量や回収するとすれば、どのように実現できるのか検討を行い、雲南全体のごみ排出量を減らしていきたい。

活動する市民や事業が見えると、必要な活動費用や事業費が可視化され、寄付や金融資本ではなくとも「木材」「野菜」などの地域に眠っている資源が循環するきっかけになる。現在、環境分野の市民活動が可視化される機会そのものが少ないが、今後活動の継続及び情報発信を並行して実施していくことで、担い手と活動に必要な資源を地域内で循環させていくことを目指す。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的に書きください